



1. 生活者要件の整理

- 2. 小牧市の強み・弱みの整理
- 3. 将来ビジョンの検討
- 4. 具体施策の検討

議題主旨：生活者要件を共有し、再定義する

1. 事前分析・アンケート結果の整理

主に「職場へのアクセス」「居住環境の充実」「育児環境の充実」が、居住地選定の際に重要視される要件として抽出された

前提となる事前分析(各種統計)

- ・ 小牧市の人口は横ばいで推移しているものの、生産年齢人口の減少が顕著である
- ・ 自然増であるものの、増加数は逡減してきている
- ・ 社会減であり、特に生産年齢人口の転出超過が顕在化している
- ・ 人口減少及び、市経済の縮小を食い止めるためにも、「生産年齢」の生活者にアプローチすることが肝要である

アンケート結果

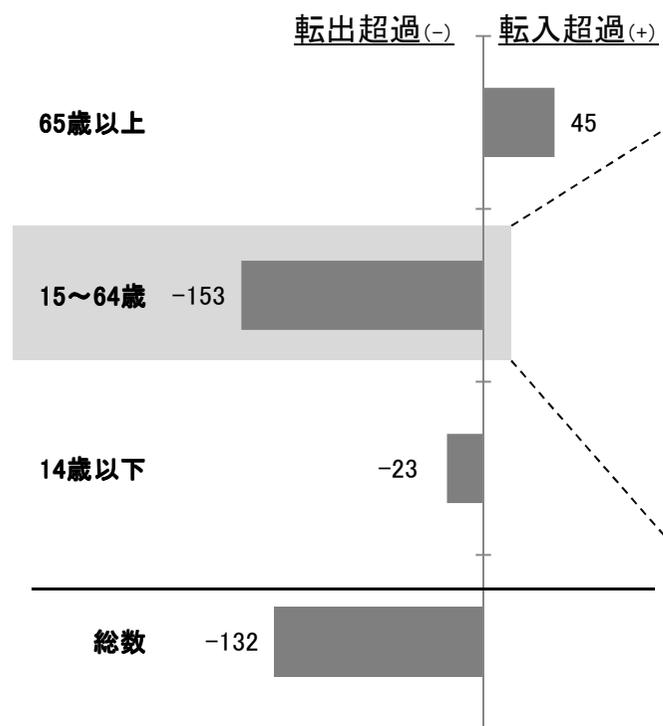
- ・ 移住時のライフステージ
 - 一般に「結婚/出産/育児」期が最も多い
- ・ 移住先選定時に重視する項目
 - ①「**職場へのアクセス**」が必要条件として重視されている
 - 閑静な街並みや緑地、治安、魅力的な住居など②「**居住環境の充実**」も条件の上位として挙げられた
 - 次いで③「**育児環境の充実**」が挙げられ、特に「結婚/出産/育児」期においては高い値を示した
- ・ 小牧市の評価
 - 上記の①(自家用車による)職場へのアクセスに関しては評価が高い
 - 一方で②居住環境、③育児環境については居住経験のある人の満足度は高いものの非居住者のイメージは良くない

(補足分析) 平成26年の小牧市人口の社会増減

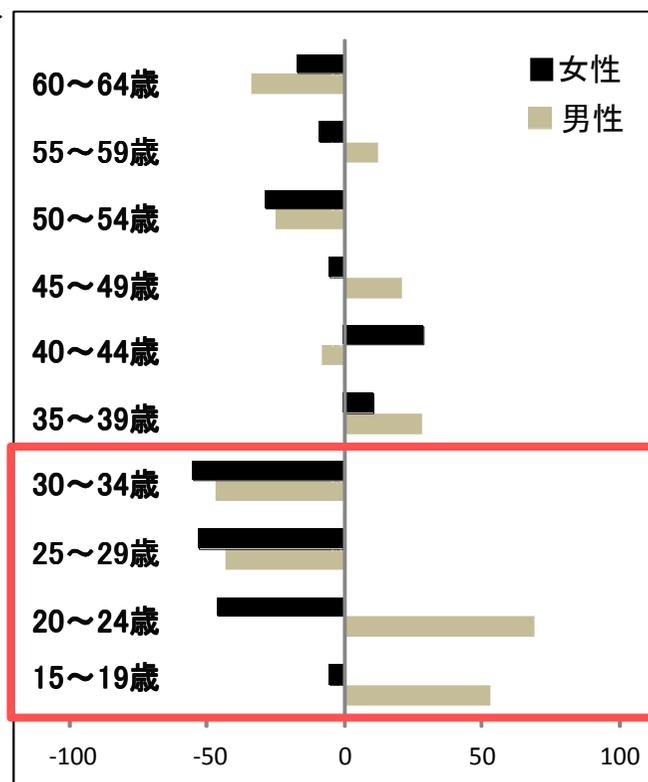
生産年齢人口(特に25-34歳)の転出超過は男女ともに顕著であり、特に女性は20代前半からその傾向が強い

平成26年の小牧市の転入転出状況

年齢3区分(人)



年齢5歳階級 生産年齢のみ抜粋(人)



転出入に関する示唆

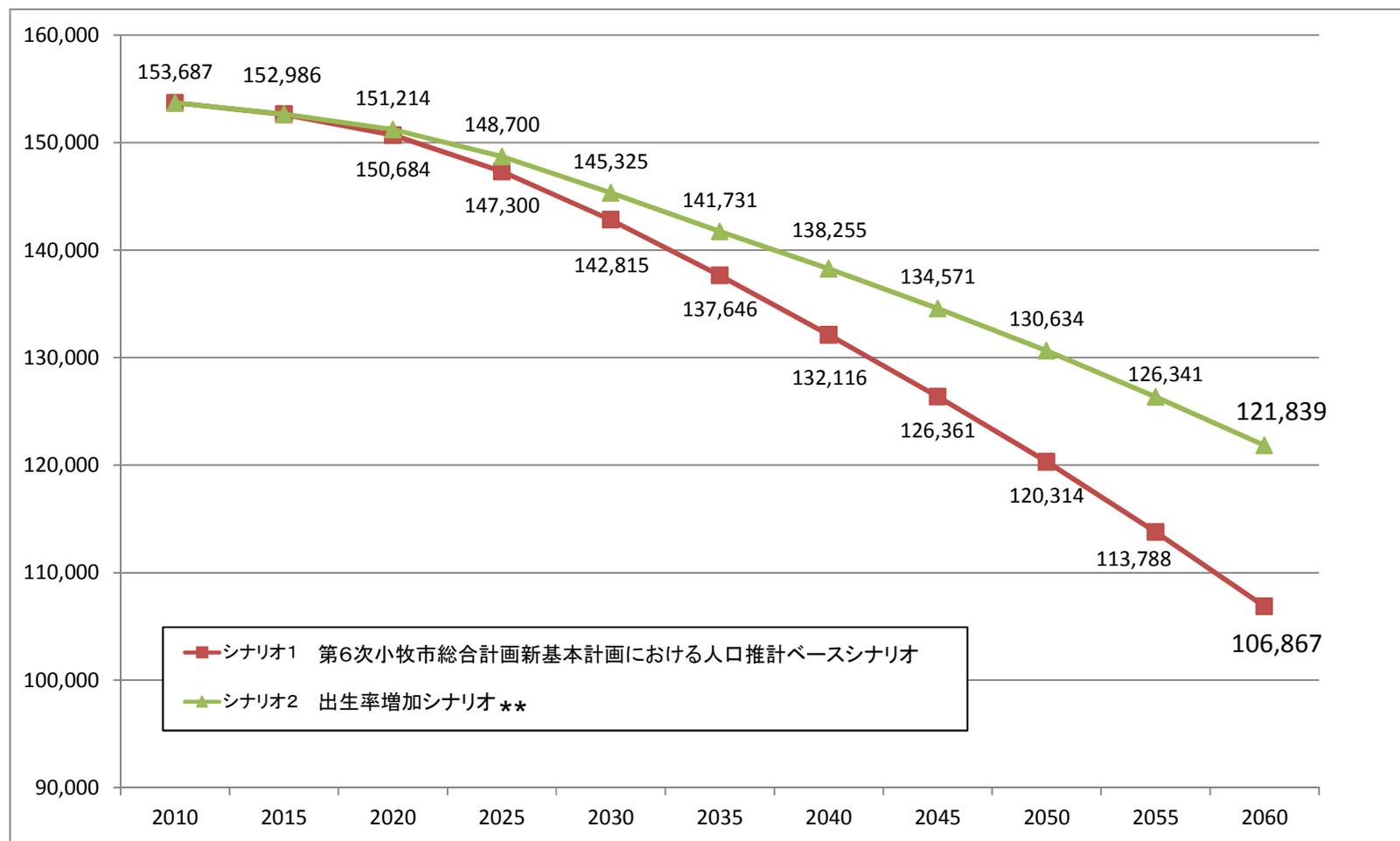
- ・ 男性は、就職時にあたる15-19歳、20-24歳では転入超過。製造業従業員が多いことが影響と推測される
- ・ 一方、25-29歳、30-34歳は転出超過。転勤の影響が大きいと推測される
- ・ 女性の15-34歳は、一貫して減少しているため、転出要因は検討の必要あり

資料: 平成26年 住民基本台帳 年齢(3区分), 男女別他市区町村からの転出入者数-全国, 都道府県, 市区町村
平成26年 住民基本台帳 人口移動報告 年齢(5歳階級), 男女別他市区町村への転出入者数

(補足分析) 小牧市 長期的な人口の見通し ※国・愛知県に準拠した場合

国の「長期ビジョン」では、若い世代の結婚・子育ての希望が実現するならば、わが国の出生率は1.8程度まで向上が見込まれるとしており、また長期的に人口を安定させていくためには、出生率を人口置換水準2.07に回復させていくことが必要と考え、愛知県もこれに準じ人口ビジョン案を発表。小牧市がこれに準拠した場合の見通しは以下のとおり。

シナリオ別将来人口推計*



* 2010年の人口は住民基本台帳の数値を使用。変数(合計特殊出生率、純移動率等)は国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠

**合計特殊出生率が、1.55(2010)、1.80(2030)、2.07(2040-2060)と変化すると想定。間の区間は線型的に増加するものと仮定

(補足分析) 出産/育児期に移住する女性の居住要件

出産/育児期の女性は、居住地選定要件に関して他の生活者以上に、「育児環境」「街が閑静で落ち着いた」「医療機関の充実」「子どもの安全」「街の清潔さ」といった視点も重視している

Q. あなたが現在の居住地に住む要因となった項目を全てお選びください。

全対象者*が居住地選びで重視するポイント

ランキング	項目(Top10)	割合(%)
1	職場アクセス(自家用車)	43%
2	家賃・地価	29%
3	職場アクセス(電車)	26%
4	職場アクセス(徒歩/自転車)	19%
5	街が閑静で落ち着いた	14%
6	商業施設の充実(日用品)	13%
7	余暇における交通機関の利便性	13%
8	育児環境	10%
9	緑地などの自然の多さ	9%
10	その他の治安	9%

出産育児期女性が重視するポイント

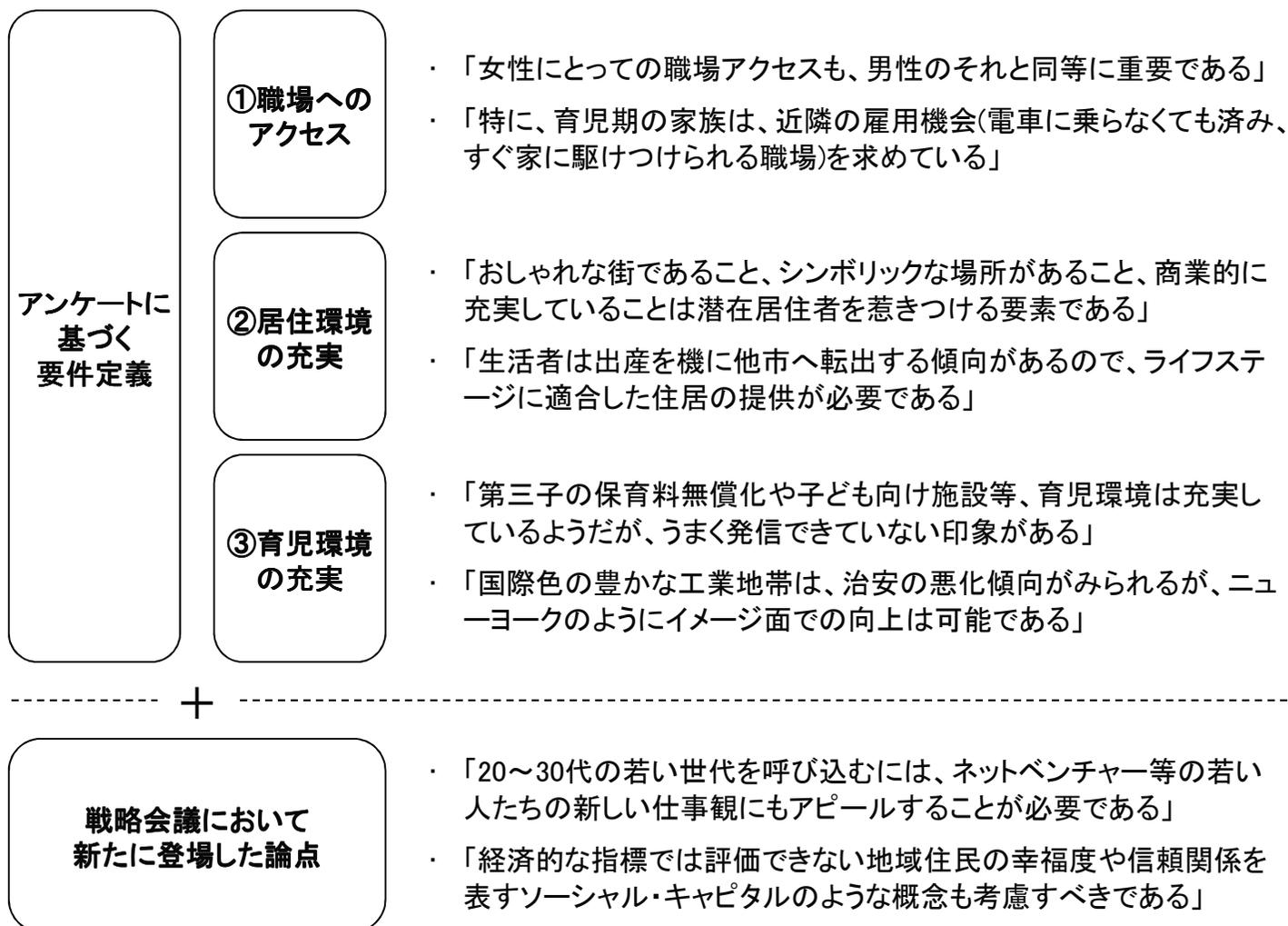
ランキング	項目(Top10)	割合(%)
1	職場アクセス(自家用車)	34%
2	育児環境	33%
3	街が閑静で落ち着いた	22%
4	余暇における交通機関の利便性	21%
5	家賃・地価	20%
6	職場アクセス(電車)	19%
7	医療機関の充実	17%
8	子供の安全性	16%
9	商業施設の充実(日用品)	15%
10	街の清潔さ、きれいさ	14%

* 居住地選定に関するアンケート対象者

1. 第1回戦略会議における生活者のニーズに関する議論の整理

先述の「職場アクセス」「居住環境」「育児環境」への様々な観点からの指摘に加え、新たに働き方や経済以外の評価尺度といった論点が挙がった

第1回戦略会議における主な意見

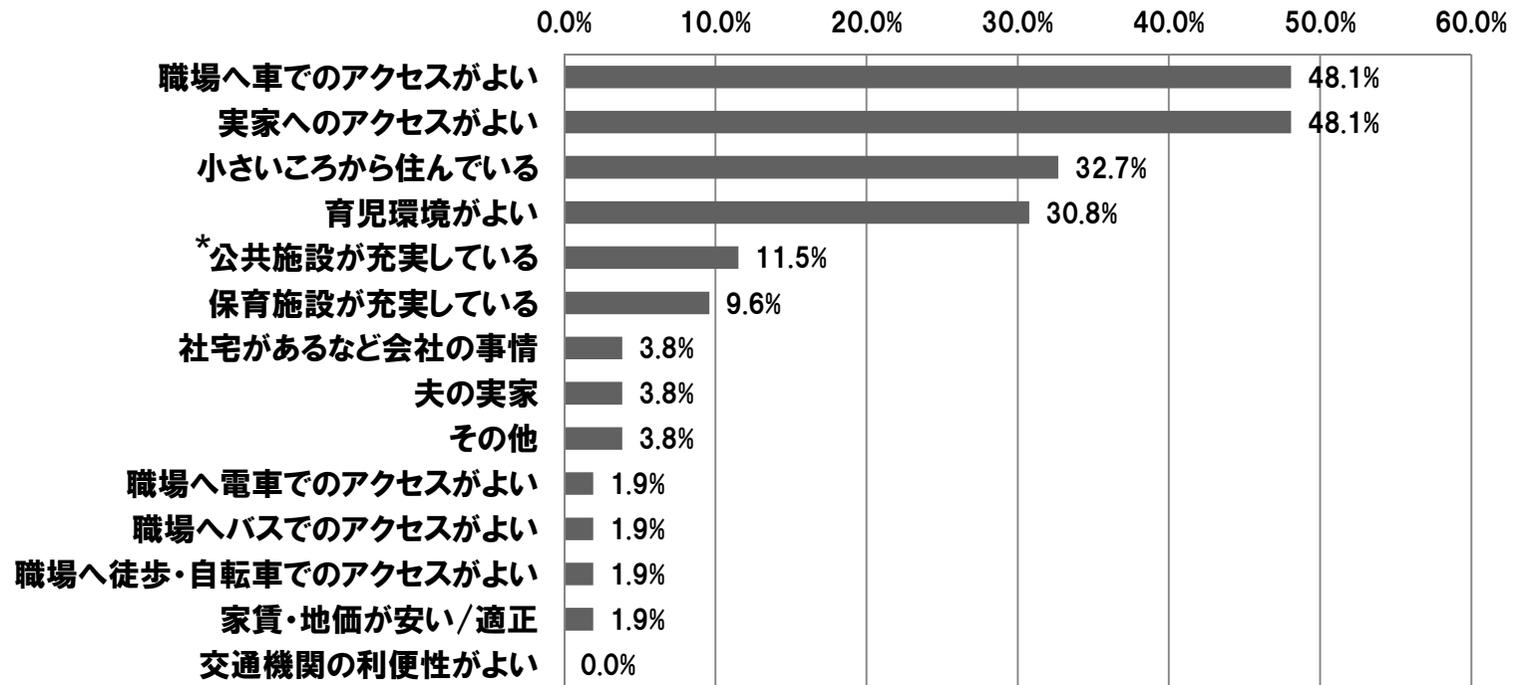


1. (参考) タウンミーティングのアンケート結果_居住地選定に関する考察

「職場アクセス」や「育児環境」はタウンミーティングのアンケートにおける小牧市の選定理由としても上位に挙げられているが、居住環境の充実に関わる意見は少数に留まった

対象者： 保育園児の子どもを持つ父母 (n = 52)

居住地としての選定理由(件)



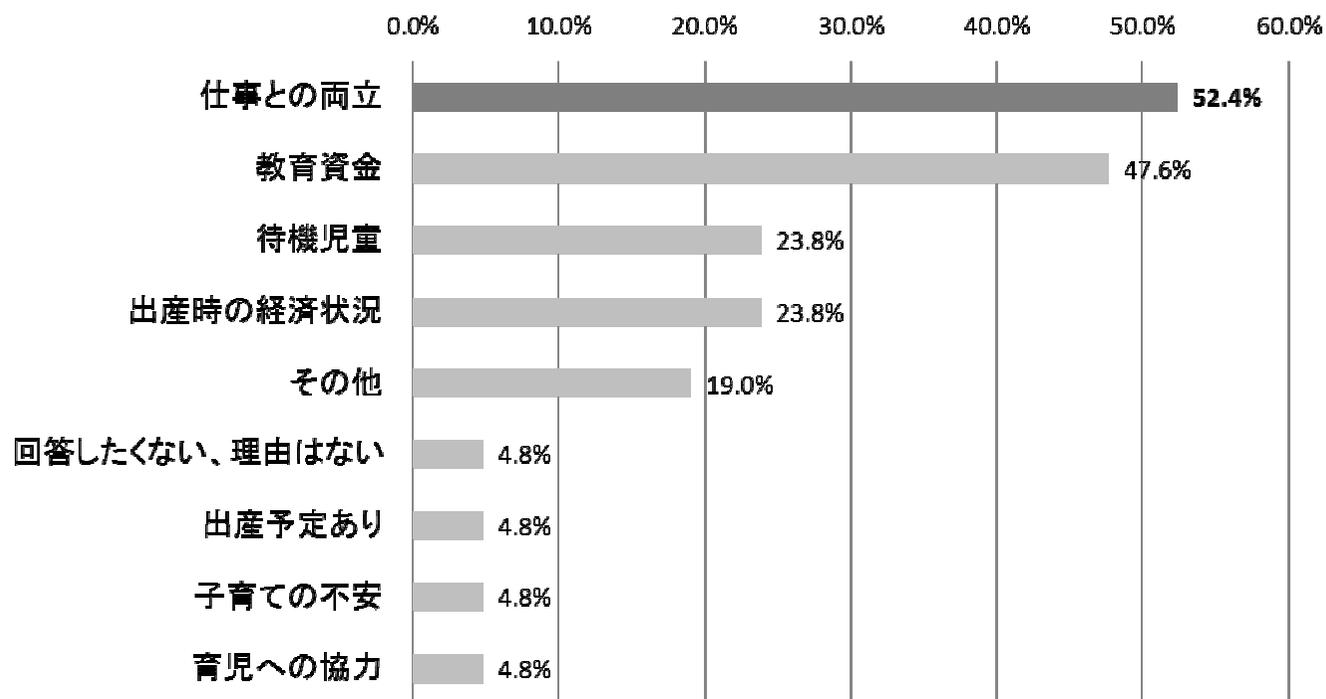
* 公共施設は、公園、イベント会場、その他(スポーツ施設、図書館)など

1. (参考) タウンミーティングのアンケート結果_子どもの人数に関する考察

子どもを理想の人数まで持つことができていない理由は、仕事と育児の両立や経済的な理由が多くを占めている。

対象者：子どもの人数が理想の数に達していない父母 (n = 21)

子どもの理想の人数と現在の人数のギャップの理由



* タウンミーティングのアンケート結果をもとに分析

1. 生活者要件のまとめ

生活者要件は就労環境（職場アクセス・柔軟性）、居住環境（ライフステージに適合した住居・街）、育児環境（子の安全・充実した育児サポート）である

事前分析・アンケートで明らかになった生活者要件	戦略会議における追加論点	タウンミーティング	生活者要件の再定義		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職場アクセス <ul style="list-style-type: none"> - 自家用車 - 電車 - 徒歩/自転車 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性が仕事と育児を両立できるような職住近接の環境 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 快適な職場アクセス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 充実した企業数・仕事環境 		
+					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 居住環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> - 地価/家賃 - 医療機関の充実 - 治安 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフステージの変化（出産等）に適合した住居の存在 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住宅補助 ・ 病院アクセス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児世代（特に女性）の職場アクセスや柔軟な雇用環境 ・ ライフステージに適合した（住居・街双方の）居住環境 ・ 安全で充実した育児環境 		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> - 保育施設の質・数 - 育児補助金 - 出産補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育や育児に関わる施策の充実 ・ 良好な治安 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育や育児に関わる施策の充実 ・ 良好な治安 		+	
<ul style="list-style-type: none"> - 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい働き方への対応 ・ ソーシャル・キャピタルのような非経済的指標による市の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> - 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 上記の要件にトレードオフがなく、且つ全てを満たすことができる環境作り 	